線形代数2:固有値と安定性

$$J = \begin{bmatrix} \frac{-1}{2} & 2\\ 0 & \frac{-3}{4} \end{bmatrix} \tag{1}$$

(1)

固有値は行列 J が与えられている時に

$$|\lambda I - J| = 0 … 行列式 $I \cdots J$ と次元数の同じ単位行列 $w = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ (2)$$

となるようなλを考えればよい。 行列式は以下のようになり、

固有ベクトルは

$$(J - \lambda I)(x) = 0 \cdots 行列式 \tag{4}$$

を満たすようなベクトルxのことなので固有値 = の時は

$$w = \begin{bmatrix} 0 & 2 \\ 0 & \frac{-1}{4} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x1 \\ x2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \end{bmatrix}$$
 (5)

を満たすベクトル x は

$$\left[\begin{array}{c}1\\0\end{array}\right] \tag{6}$$

固有値 🛂 の時は

$$w = \begin{bmatrix} \frac{1}{4} & 2\\ 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x1\\ x2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0\\ 0 \end{bmatrix}$$
 (7)

を満たすベクトル x は

$$\begin{bmatrix} -8\\1 \end{bmatrix} \tag{8}$$

(2) 対角化は試験問題に載せてあるように $P^{-1}AP = \Lambda$ の過程を示す。P の逆行列は

$$P^{-1} = \begin{bmatrix} 1 & 8 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \tag{9}$$

 $なので P^{-1}AP = \Lambda$ を解くと

$$\Lambda = \begin{bmatrix} \frac{-1}{2} & 0\\ 0 & \frac{-3}{4} \end{bmatrix}$$
(10)

よって対角化は示された。

 $(3) J^n l t$

$$J^{n} = D \begin{pmatrix} \lambda^{n} & 0 \\ 0 & \lambda^{n} \end{pmatrix} D^{-1}$$
 (11)

で求まるのでこれを計算すると

$$J^{n} = \begin{pmatrix} \lambda^{n} & 0 \\ 0 & \lambda^{n} \end{pmatrix} \tag{12}$$

となる。(4) 時間を $t\to\infty$ としたときに $n\to\infty$ となっているため、時間発展の結果は

$$J^{n} = \begin{pmatrix} \lambda^{n} & 0 \\ 0 & \lambda^{n} \end{pmatrix} \tag{13}$$

の λ に固有値を代入したものになり、実質0に収束するため、時間変化が0になる、すなわち定常状態に 戻ると推測される。 終了